

平成26年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

平成27年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

はじめに

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

委員長 吉水 裕也

平成 26 年度は、前年度に引き続き FD 推進活動が本学の大学経営に関する重点事項の一つに位置づけられた。昨年度は FD 推進活動の方向性を定めるべく、兵庫教育大学における FD 活動の定義を作成した。教職協働で、かつ学生の参画を得て行う教育の質保証に関する全ての活動を本学における FD 活動とした。FD 活動への学生参画の実質化を図るために設置した学生・教職員 FD 活動交流会（以下、FD 活動交流会）は今年度 4 回開催され、活発な議論が行われた。

さて、今年度最も多くの時間を費やして取り組んだのが『『ベストクラス賞』創設の検討』である。高等教育機関における授業がどうあるべきかを、「授業は誰のものか」という問いを中心に教職員と学生とが共に議論した。その結果、賞ではない「ベストクラス」として複数選定することとなった。ベストクラスは、あらかじめ良い授業のモデルを設定して、それに近いものを選ぶという方法をとらない。授業は、ねらい、規模、形態等がそれぞれ異なり、多様である。その多様性が失われることは教育の質保証につながらないと考えた。ベストクラス選定には「学生による授業評価」の自由記述欄に書かれた肯定的な記述を資料として用いることとした。そのため、自由記述欄には当該授業についての良かった点と課題を書いてもらうように変更を加えた。授業のねらい等を教員や受講生が共有できおり、教員も受講生も自分たちのクラスを振り返ってその良さや課題を説明できることが教員養成系大学に在籍する者として大切なのではないかという考えからである。同様にベストクラスを選定する側は、その理由を説明できなければならない。そのためベストクラスの選定には、FD 活動交流会のメンバーが積極的に関わり、選定理由を丁寧に書くことになる。

ベストクラスという概念構築の過程で、京都大学の松下佳代先生、立命館大学の沖裕貴先生にお越しいただき、本学の取り組みについて大変有益なご意見をいただいた。この場をお借りして御礼を申し上げたい。なお、FD 活動交流会の内容は、全てテキスト化して FD 推進委員会の HP（学内限定）に掲載されている。それは、このような取り組みや決定がどのような経緯で行われ、ベストクラスという概念が作り上げられてきたのかを可視化し共有することが広く構成員の理解と協力を促し、授業について考えるための材料としても重要だと考えたからである。

FD 推進活動では、多忙な日々の中で地道に授業改善に取り組まれている教員の方々の活動を支援し、またその貴重な取り組みを掘り起こしていくことが重要だと考えている。学内で行われている様々な良い取り組みを共有し、兵庫教育大学の教育活動の一層の充実をめざしていきたい。

FD 推進活動にご理解とご協力をいただいている皆様に、感謝申し上げます。

目 次

はじめに

I. 平成26年度のFDに関する取組実績	
－「FD活動の活性化」について－	1
II. 1年間の活動実績	2
III. 資料	4
資料1. 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	5
資料2. 授業公開の実施に関する申合せ	7
資料3. 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	8
資料4. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(平成26年度)	9
資料5. 本学におけるFDの定義について	10
資料6. 兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	11
資料7. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会議事要旨 (平成26年度第1回～第7回)	12
資料8. 兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会(第2回)の実施結果について	26
資料9. 第2回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会アンケート (リアクションシート) 集計結果	27
資料10. 平成26年度 FD研究会等参加状況一覧	30
資料11. 本学におけるアクティブ・ラーニングの主な取り組み事例(平成26年度)	31
資料12-1. 課外プログラム「通常学級の特別支援教育」	33
資料12-2. キャリアデザイン講座	35
資料12-3. アカデミックカフェ	39
資料12-4. Learning Activation Project	41
資料13. 学内FD研修会(ロイロノート・デモ)	46
資料14. 平成26年度教職大学院授業改善・FD委員会 活動実績	47
資料15. 平成26年度前期「学生による授業評価」実施結果	48
資料16. 平成26年度前期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧(学部)	49
資料17. 平成26年度前期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧(大学院)	50
資料18. 平成26年度後期「学生による授業評価」実施結果	51
資料19. 平成26年度後期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧(学部)	52
資料20. 平成26年度後期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧(大学院)	53
資料21. マークカード様式	54
資料22. 「学生による授業評価」集計結果出力表(例)	55
資料23. 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について(第2回～第5回)	56

I. 平成26年度のFDに関する取組実績

－「FD活動の活性化」について－

1. 平成26年度のファカルティ・ディベロップメント推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。 《資料1～7 参照》

中期計画 ²³	全学的なファカルティ・ディベロップメント活動や教育活動に対する評価結果を、教育の質の向上や改善に結びつけるための組織的取組を行う。
年度計画 ²⁶	学内の各組織で行われているFD活動の成果を蓄積し、全学的に共有していくための方策について検討し、組織としての教育の質の向上や授業改善に継続的に取り組む。

2. 企画運営会議における当面の重点事項として掲げられた事項は次のとおりである。

(1) アクティブ・ラーニングの推進 《資料8～14 参照》

- ・全学教職員会議・新入生オリエンテーションでFD活動内容の告知を行う。
- ・アクティブ・ラーニング研究会を実施する。
- ・授業改善や学内アクティブ・ラーニングの取り組みを掘り起こし、蓄積する。

(2) 学生による授業評価方法の改善 《資料15～22 参照》

- ・授業評価の集計方法について検討する。
- ・25年度に実施した『「学生による授業評価」についてのアンケート』結果を受けて、項目の変更や追加等を検討し、授業評価項目の改変を実施する。

(3) 大学院授業動画の活用

- ・制作した動画を授業改善の取り組みの一つと位置づけ、本学Webサイトで公表する。

(4) 「ベストクラス賞」創設 《資料23 参照》

- ・学生・教職員FD活動交流会を開催する。
- ・学生参画を基本方針として、「ベストクラス賞」自体が創設できるのかどうかを検討する。
- ・ベストクラスという概念やその定義を検討する。

Ⅱ. 1年間の活動実績

日 付	事 項
平成26年 4月14日	授業評価結果と改善案の学生報告
平成26年 5月10日	教育実践高度化専攻 授業公開
平成26年 5月15日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第1回）
平成26年 5月17日	関西地区FD連絡協議会第7回総会
平成26年 5月21日	教育実践高度化専攻会議でのFD活動取組状況研修
平成26年 5月25日 ～ 8月 8日	教職大学院授業改善・FD委員会 「共通基礎科目」と「専門科目」の前期授業評価実施
平成26年 6月10日	Learning Activation Project ワークショップ第1弾「学び、まなび、マナビ ～学びって何だろう～」
平成26年 6月25日	第2回学生・教職員FD活動交流会
平成26年 6月30日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第2回）
平成26年 7月 1日 ～ 9月12日	前期「学生による授業評価」の実施
平成26年 7月14日	Learning Activation Project ワークショップ第2弾「時間」
平成26年 7月17日 ～ 8月 8日	教職大学院授業改善・FD委員会 修了生に対する教育成果調査の実施
平成26年 7月25日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第3回）
平成26年 8月25日	教育支援システム「LiveCampus」のアンケート機能紹介
平成26年10月 4日	教育実践高度化専攻 授業公開
平成26年10月15日	Learning Activation Project ワークショップ第3弾「家族」
平成26年10月25日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第4回）
平成26年11月11日	Learning Activation Project ワークショップ第4弾「話す・聴く」
平成26年11月13日	第2回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会 （合同開催：第3回学生・教職員FD活動交流会）
平成26年12月 1日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第5回）
平成26年12月17日	Learning Activation Project ワークショップ第5弾「恋愛」

平成27年 1月 8日 ～ 3月 9日	後期「学生による授業評価」の実施
平成27年 1月22日	第4回学生・教職員FD活動交流会
平成27年 2月 5日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第6回）
平成27年 2月 6日	学内FD研修会（ロイロノート・デモ）
平成27年 2月 6日 ～ 2月20日	教職大学院授業改善・FD委員会 「共通基礎科目」と「専門科目」の後期授業評価実施
平成27年 2月 6日 ～ 2月20日	教職大学院授業改善・FD委員会 「実習科目」「課題研究」の授業評価実施
平成27年 2月27日	第5回学生・教職員FD活動交流会
平成27年 3月13日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第7回）

Ⅲ. 資料

資料 1	国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程
資料 2	授業公開の実施に関する申合せ
資料 3	本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図
資料 4	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿（平成26年度）
資料 5	本学におけるFDの定義について
資料 6	兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み
資料 7	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会議事要旨 （平成26年度第1回～第7回）
資料 8	兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会（第2回）の実施結果について
資料 9	第2回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会アンケート（リアクションシート） 集計結果
資料 10	平成26年度FD研究会等参加状況一覧
資料 11	本学におけるアクティブ・ラーニングの主な取り組み事例（平成26年度）
資料 12-1	課外プログラム「通常学級の特別支援教育」
資料 12-2	キャリアデザイン講座
資料 12-3	アカデミックカフェ
資料 12-4	Learning Activation Project
資料 13	学内FD研修会（ロイロノート・デモ）
資料 14	平成26年度教職大学院授業改善・FD委員会 活動実績
資料 15	平成26年度前期「学生による授業評価」実施結果
資料 16	平成26年度前期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧（学部）
資料 17	平成26年度前期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧（大学院）
資料 18	平成26年度後期「学生による授業評価」実施結果
資料 19	平成26年度後期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧（学部）
資料 20	平成26年度後期「学生による授業評価」における自由記述 主な記述一覧（大学院）
資料 21	マークカード様式
資料 22	「学生による授業評価」集計結果出力表（例）
資料 23	学生・教職員FD活動交流会の実施結果について（第2回～第5回）

国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

	(平成16年4月1日規程第17号)
改正	平成17年3月31日
	平成17年9月6日
	平成18年3月8日
	平成18年7月12日
	平成18年12月6日
	平成19年3月14日
	平成20年1月16日
	平成20年3月11日
	平成23年3月14日
	平成24年3月26日
	平成25年4月2日

(設置)

第1条 国立大学法人兵庫教育大学（以下「本学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1人
- (2) 教育支援（FD）担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻又は特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2人
 - イ 教育内容・方法開発専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1人
- (4) 学長が指名した者

2 前項第3号及び第4号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第1項第2号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FDに係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他FDに関すること。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部教育支援課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず平成24年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月2日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

平成 21 年 11 月 6 日

学 長 裁 定

改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

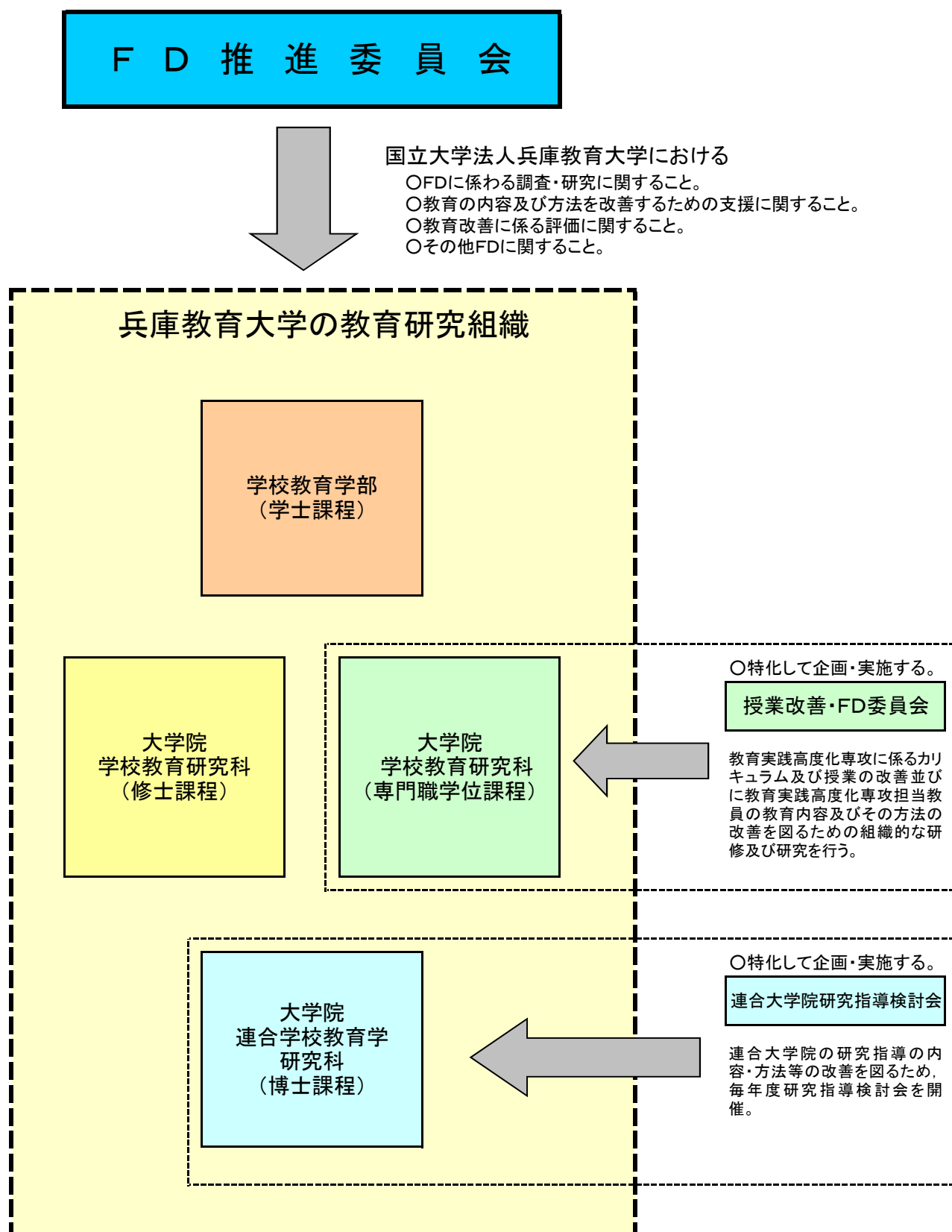
原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

所 属 等	職 名	氏 名	任 期	備 考
—	副学長	福本 謹一	—	第 1 号委員
—	学長特別補佐 (教育支援 (F D) 担当)	吉水 裕也	—	委員長 第 2 号委員
人間発達教育専攻 教育コミュニケーション コース	准教授	宮元 博章	H26. 4. 1 ～H28. 3. 31	第 3 号委員
特別支援教育専攻 障害科学コース	教 授	鳥越 隆士	H26. 4. 1 ～H28. 3. 31	〃
教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	教 授	澁江 靖弘	H26. 7. 1 ～H28. 3. 31	〃
教育内容・方法開発専攻 文化表現系教育コース	准教授	岡本 信一	H26. 4. 1 ～H28. 3. 31	〃
教育内容・方法開発専攻 行動開発系教育コース	教 授	長瀬 久明	H26. 4. 1 ～H28. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	講 師	伊藤 博之	H26. 4. 1 ～H28. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	准教授	山中 一英	H26. 4. 1 ～H28. 3. 31	第 4 号委員

本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

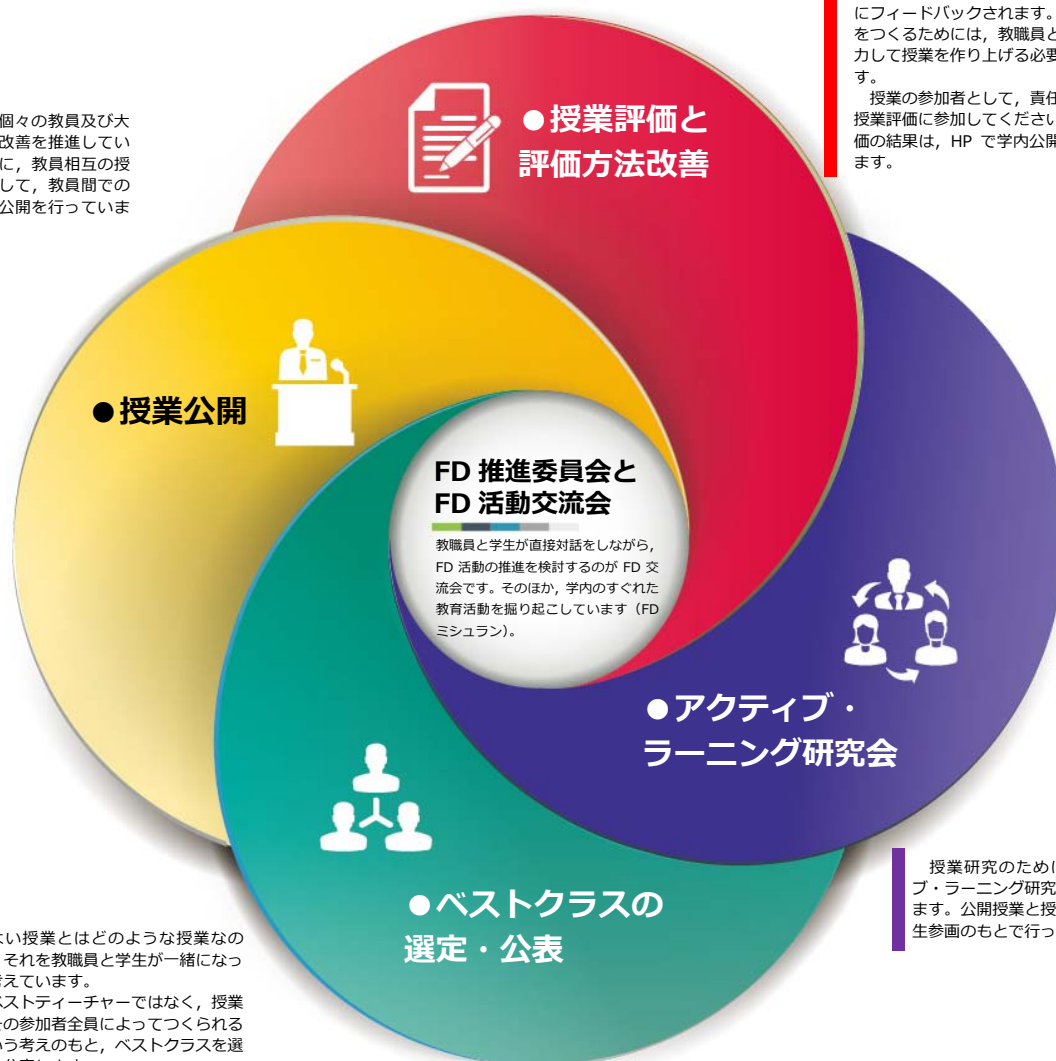
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 1 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 5 月 15 日（木）14:50～16:20

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，福本委員，宮元委員，鳥越委員，竹村委員（代理出席），岡本委員
（欠席）山中副委員長，長瀬委員，伊藤委員

議 事

審議に先立ち，資料 1 に基づき，本年度の F D 推進委員会委員の確認が行われた。

また，委員長から，副委員長については，山中委員に依頼したい旨の提案が行われ，了承された。
引き続き，資料 3 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり
了承された。

1. 審議事項

（1）副委員長の選出について

委員長から，資料 2 に基づき，副委員長の選出について説明が行われ，副委員長については，
山中委員に依頼したい旨の提案が行われ，了承された。

（2）前回委員会の議事要旨（案）について

委員長から，資料 3 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のと
おり了承された。

（3）平成 26 年度 F D 活動の取り組み内容について

①委員長から，資料 4 に基づき，全学教職員会議及び新入生オリエンテーション等で説明された
本学の F D 推進活動の取り組み状況の説明及び確認が行われた。

②委員長から，資料 5－1～5－2 及び参考資料 1～2 に基づき，昨年度の委員会としての活動
内容の確認が行われ，本年度は昨年度の時期・事項を踏まえて F D 活動を推進することになる
旨の説明が行われ，了承された。

③委員長から，資料 6 に基づき，本年度の大学経営の重点事項として，昨年度に引き続き「F D
活動の活性化」が掲げられていることから，原案について検討が行われ原案を一部修正し，企
画運営会議に提出することが了承された。

各委員からの意見は次のとおりである。

・重点事項(3)について，「Web による授業配信の推進」の意味合いについて確認したい。

→ 委員会として制作を行うのではなく，制作された授業動画が F D としてどのように活用で
きるのか等，その可能性を検討していく。

・重点事項(3)の達成度としての評価を考えた場合，企画運営会議から示された項目では，達成が
難しいと思う。

→ 委員会として，企画運営会議へ項目変更を申し入れることとしたい。

〈企画運営会議の項目〉

〈委員会修正案〉

(3) Web による授業配信の推進 → (3) 大学院授業動画の活用

・重点事項(3)は，情報発信・広報に関するものとしての活用も図られるべきと思う。

→ 当然，大学の P R に繋がるものとしての，広報関係部署での活用も図られるべきであるので，
F D 推進委員会だけで活用するものではないが，F D の観点での活用を検討していく。

- ・重点事項(4)「ベストクラス賞」の創設について、昨年度のFD推進委員会で検討された「ベストクラス」の概念は、固定概念とするのか。

→ FDの視点にたって、「ベストクラス」について議論することが、FD活動としての授業改善に資するものと考えられる。今後も引き続き検討事項とする。

(4) 特定期間を設けた授業公開について

委員長から、資料7に基づき、「授業公開の実施に関する申合せ」の改正案について説明が行われた。審議の結果、原案のとおり了承された。

(5) 学生による授業評価について

委員長から、資料8に基づき、昨年度の委員会での検討を踏まえマークシートの様式に、記入者(学生)の授業への出席度を追加し変更したことの説明が行われた。なお、変更に伴い、集計方法は、従来の「全回答者」によるものと、「11回以上出席した者」によるものの2通りで行うこととされた。

また、資料9-1については、全教職員あてにメールで周知することが了承された。

併せて、資料9-2及び9-3については、教職員及び学生へフィードバックするために、本学Webサイトの学内専用ページに掲載することが了承された。

2. 報告事項

(1) 平成26年度FD推進経費について

委員長から、資料10～11に基づき報告が行われ、他大学等で開催されるFD関連研究会への参加推進についても依頼が行われた。

3. その他

次回委員会については、6月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

併せて、学生・教職員FD活動交流会の開催についても、後日日程調整を行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 2 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 6 月 30 日（月）14:50～15:50

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，宮元委員，鳥越委員（代理出席：石倉准教授），
竹村委員（代理出席：石原准教授），長瀬委員
（欠席）岡本委員，伊藤委員

議 事

審議に先立ち，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）学生・教職員 F D 活動交流会について

- 委員長から，資料 2 から 5 に基づき，6 月 25 日（水）実施結果について報告が行われた。
- また，今後の学生・教職員 F D 活動交流会の進め方について，これまでの検討状況を踏まえ，10 月中下旬を目途に，学外の専門家を招いてワークショップを開催し，本学の活動内容を客観的に評価・批判いただくことで，今後の活動に活かしたい旨の提案が行われた。
- その後，意見交換が行われ，原案のとおり了承された。主な意見交換の内容は次のとおりである。
- ・資料 5 「アクティブ・ラーニングとは？」について，委員会としての見解であるのかについて
→ H25. 12. 20 開催の第 1 回アクティブ・ラーニング研究会講師から示された考え方の一例であり，「アクティブ」と「ディープ」な学びの関係性を考える上での参考資料である。
 - ・「ベストクラス賞」や「ベストクラス」は誰が選定するのかについて
→ これまでの本委員会や F D 活動交流会では，「賞」を作ることを前提とせずに「ベストクラス」の概念やその選定自体の可否について検討を行ってきたので，今後委員会等で更なる検討を行い，調整を図る必要がある。
 - ・学外の専門家を招いたワークショップへの参加者について
→ F D 推進委員会委員と F D 活動交流会参加者を中心に，学内の教職員・学生に周知する。

（2）学生による授業評価について

委員長から，資料 6－1 及び 6－2 に基づき説明が行われ，今後本委員会で検討していく内容として了承された。なお，各コース等での意見がある場合には，次回委員会へ提案願うこととされた。

（3）アクティブ・ラーニング研究会について

委員長から，資料 7－1 及び 7－2 に基づき，従来実施してきた「特定期間における授業公開」に代わるものとして，アクティブ・ラーニング研究会を位置づけることの提案が行われ，了承された。

なお，アクティブ・ラーニング研究会の実施内容等については，次回以降の委員会で引き続き検討することとされた。

2. 報告事項

(1) 関西地区FD連絡協議会第7回総会について

委員長及び副委員長から、資料8及び9に基づき報告が行われた。

(2) 平成26年度前期「学生による授業評価」の実施について

委員長から、資料10及び11に基づき、前期「学生による授業評価」の実施について報告が行われた。

3. その他

次回委員会については、7月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 3 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 7 月 25 日（月）9:00～10:30

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，宮元委員，鳥越委員，澁江委員，長瀬委員，伊藤委員
（欠席）岡本委員

議 事

審議に先立ち，資料 1 に基づき，委員の交代について報告が行われた。また，資料 2 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）学生による授業評価について

委員長から，資料 3 から 4 に基づき説明が行われ，以下のとおり検討が行われた。

①資料 3 について

- ・資料 3（1）及び（2）については，原案のとおり了承された。
- ・（3）について，現行の授業評価に加え，授業者の判断により適宜実施する授業評価については，LiveCampus の特性を周知するとともに，それらを利用して任意で授業評価を実施している事例を，本年度後期以降の活用をめざし，メールや説明会を通じて周知する。なお，具体的な周知文書や講師依頼については，委員長に一任することとされた。
- ・（4）については，継続審議とする。なお，主な意見交換の内容は次のとおりである。
 - 他大学での実施状況も多くはない。
 - 記名欄を設けても，記名欄への記載は任意として強要しない。
 - 委員会として，記名欄を設けることの意味（責任を持って授業に参加すること）を学生に理解させる必要がある。
 - 全学的な授業評価以外に教員独自の授業評価を実施するのならば，無記名式の授業評価と記名式の授業評価として実施してもよいのではないかと。

②資料 4 については，次のとおり対応することとされた。

- ・オムニバス形式の授業についての評価を教員毎に行う要望があるが，現行の評価においても，個別の意見がある場合は，自由記述欄に記載することとしており，授業評価自体が，教員評価でなく，授業（科目）としての評価であるので，その趣旨を徹底させる。
- ・マークシートの回収方法については，教員への実施にあたっての留意事項として，「調査票の回収は，受講生の代表者が行い，回収用封筒に入れて，その場で封をして教員に渡す。」こととしているので，学生がその業務を行うよう，教員に対して周知徹底する必要がある。
- ・回収封筒にも，学生が回収し封をする旨を明記する。
- ・自由記述欄への記載内容について，ネガティブな意見を助長することがないよう様式を工夫する。（27 年度評価より様式にその旨盛り込むことを検討する。）
- ・授業評価の趣旨・実施方法等については，機会ある毎に積極的に周知し，HP 上でいつでも確認できる体制を整える。

(2) アクティブ・ラーニング研究会について

委員長から、参考資料及び資料5に基づき、第2回学生・教職員FD活動交流会の実施結果について報告が行われた。交流会の会議要旨は、検討の経緯を示す重要な記録であるので、内容を共有するためにWebに掲載することとされたが、内容については、委員長が再度内容を精査し、掲載することとされた。

また、資料6に基づき、次回の学生・教職員FD活動交流会の内容について提案が行われ、講師の依頼や日程調整については、委員長に一任することとされた。

なお、FD活動交流会のメンバーについては、大学院学生が修論等で参加が難しくなることを考慮して、新しいメンバー（学部生についても同様）を募ることとされた。募集方法については、本取り組みに興味のある学生に対して、委員や交流会メンバーからの声かけや院生協、クラス幹事に声かけを行うこととされた。

2. 報告事項

(1) 第2回学生・教職員FD活動交流会の実施内容について

委員長から、審議事項(2)において、併せて報告が行われた。

3. その他

次回委員会については、9月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 4 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 10 月 15 日（火）16:30～18:02

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，宮元委員，鳥越委員，澁江委員，伊藤委員
（欠席）長瀬委員，岡本委員

議 事

審議に先立ち，隈元准教授，横山特命准教授，川内講師から，他大学の F D 事業への参加報告が行われた。

引き続き，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

1. 審議事項

（1）学生による授業評価について

①委員長から，平成 26 年度前期授業評価の実施結果について，資料 2 に基づき報告が行われた。

②9 月 29 日開催の企画運営会議での意見について，次のとおり報告が行われた。

- ・アンケートの集計結果については，科目平均という言葉よりも，受講者平均という言葉の方が良いのではないか。科目平均というと全科目の平均と自分の科目の比較ともとれる。
- ・15 回全部出席した者と 2，3 回休んだ者との間に差があるのではないか。
- ・出席回数を 3 区分しているが，外部に対してネガティブな印象を与えかねないので，11 回以上の区分だけでよいのではないか。

上記企画運営会議の意見を受けて，資料 3 に基づき，集計結果表の表記変更について提案が行われ，11 回以上の欄だけを残すことが了承された。

③前回からの継続審議である「学生参画を促す意味で記名式とすること」については，資料 1 に基づき論点の確認，及びこれまでの審議経過の説明が行われ，記名をすることについて，再度意見交換が行われた結果，「記名はしない」こととされた。

主な意見交換の内容は，次のとおりである。

- ・記名を義務づけるのであれば，記名をすることの意味（責任をもって授業に参加すること）を学生に適切に伝える必要がある。
- ・記名欄を設けても，記名を任意とするのならば，学生にはその意図が伝わりにくく，記名することのメリットと記名しないことのメリットが中途半端になってしまうのではないか。
- ・無記名であれば書かれる意見が，書かれなくなることも危惧される。
- ・無責任な意見を排除する意図は分かるが，担当教員に対して個人が特定されることはないということが，学生に伝わらないかもしれない。
- ・記名して何らかの意見を書いた場合に，その個人に改善内容等がフィードバックされるのであれば，意味はあると思う。

- ・記入時間を充分確保するか、しないかによっても、学生のコメントの内容が左右されることがある。
- ・全学的に行っているこの授業評価に全ての機能を盛り込む必要はなく、記名を求める授業評価は教員が個別に実施すればよいのではないかと。
- ・オムニバス形式の授業に対するコメントの記載方法やフィードバックの在り方については、他大学等でも議論されていないが、今後はオムニバス授業のマネージメントについても検討する必要があるのではないかと。
- ・授業への参加回数のチェックについては、授業保証の観点やチェック漏れを防ぐための工夫が必要ではないかと。

上記の意見を受けて、資料4によるマークカードの記載内容変更案については、次年度に向けて、再度記載内容変更の提案を行うこととされた。また、出席回数の回数表記において、実験科目等の2コマ続きの授業に対する回数の数え方についての意見があり、11回以上という表現に関しては検討することとされた。

(2) アクティブ・ラーニング研究会について

委員長から、資料5及び6に基づき、11月13日開催のアクティブ・ラーニング研究会の内容について提案が行われ、了承された。

また、FD活動交流会の学生メンバーの出席予定状況について報告が行われ、FD推進委員会委員の出席についても依頼が行われた。

2. 報告事項

(1) 他大学のFD関連事業への参加について

会議冒頭で報告が行われた。

(2) 前期授業評価の実施について

審議事項(1)において報告が行われた。

3. その他

次回委員会については、11月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 5 回）議事要旨

日 時 平成 26 年 12 月 1 日（月）14:50～16:20

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，宮元委員，鳥越委員，澁江委員，長瀬委員，伊藤委員
（欠席）岡本委員

議 事

審議に先立ち，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

審議事項

（1）学生による授業評価について

①委員長から，平成 26 年度前期授業評価における自由記述について，資料 2 及び 3 に基づき報告が行われた。

また，福本理事・副学長から，過日実施された「大学機関別認証評価に係る訪問調査」で話題になった内容について次のとおり言及があった。

- ・授業評価のフィードバックについては，本学 Web サイトで公表することによって，学生へのフィードバックとしているが，直接当該年度の受講者へのフィードバックにはならないため，次年度の授業にどのように活かされたのかを検証・実施していく体制を組織的に検討していく必要がある。

②委員長から，前回からの継続審議である平成 27 年度以降のマークカード表記事項について，前回議事要旨（資料 1）に基づき，授業への参加回数の設問表記について，資料 4 のとおり提案が行われ，原案のとおり了承された。

③委員長から，平成 26 年度後期授業評価の実施について，資料 5 及び 6 に基づき，説明が行われ，原案のとおり了承された。

（2）授業評価（自由記述）の取り扱いについて

委員長から，このたび，ある複数教員で担当する授業科目の分担教員から，当該科目の自由記述を含む集計結果の送付依頼が教育支援課にあったことの報告が行われ，現状の対応について資料 8 に基づき，複数教員で担当する授業科目についてのコメント等のとりまとめについて説明が行われ，それを踏まえ，このたびの申出に基づき，資料 7 のとおり対応した旨の説明が行われた。

このたびの対応及び授業改善への対応策としての，フィードバックのあり方について意見交換が行われた結果，フィードバックは，現状のとおりシラバス記載の筆頭教員に送付し，共有してもらうことが確認された。

主な意見は次のとおりである。

- ・自由記述から個人名を削除することはできないのか。
- ・固有名詞が出た時に，その教員が他の教員に知られることが不本意（恥ずかしい）であるということ

- なのか、その教員に対して批判的な記述があるということが伝わるのが問題なのか、どちらなのか。
- ・一つのカリキュラムの中のことであるので、ネガティブな記述も含めて共有されるべきではないか。
 - ・自由記述は、個人的な感情によるものもあると思われるので、内容を推し量って、筆頭教員の裁量に委ねているところがある。
 - ・非常勤講師を含んだ科目では、一層対応に苦慮することがある。

(3) 「ベストクラス」について

- ①吉水委員長から、11月13日に開催された第2回アクティブ・ラーニング研究会の実施結果について、資料9～11-4に基づき報告が行われた。
- ②第2回アクティブ・ラーニング研究会から見えてきた課題と方向性について、資料10に基づき、説明が行われた。
- ③資料12に基づき、「ベストクラス」選定にかかる方向性について、意見交換を行い、1月中旬に「第4回学生・教職員FD活動交流会」を実施し、第2回アクティブ・ラーニング研究会での内容を共有し、学生の意見を聞くこととされた。

(4) 平成26年度年度計画実績評価票（中間報告）及び平成27年度年度計画について

委員長から、資料13に基づき、年度計画実績評価票（中間報告）（案）について説明が行われ、意見がある場合は、12月5日（金）までに、教育支援課教務企画チームまで提出することとされた。

なお、提出意見の取り扱いについては、委員長に一任することとされ、次年度の年度計画案については、今後評価委員会から変更案が提示されることもあり得ることの説明が行われた。

2. 報告事項

(1) 他大学のFD関連事業への参加について

安原一樹准教授が出席のうえ、報告を行う予定であったが、急遽所用のため出席できなくなり、提出資料により報告に代え、各自で一読願うこととされた。

(2) アクティブ・ラーニング研究会の実施結果について

審議事項（3）において報告が行われた。

(3) 平成26年度「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」について

吉水委員長から、教育実践演習専門部会の取り組みについて、資料14及び15に基づき報告が行われた。

3. その他

次回委員会については、1月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 6 回）議事要旨

日 時 平成 27 年 2 月 5 日（木）9:00～10:22

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，宮元委員，鳥越委員，澁江委員，長瀬委員
（欠席）岡本委員，伊藤委員

議 事

審議に先立ち，資料 1 に基づき，前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ，原案のとおり了承された。

引き続き，寺尾教授から，他大学の F D 事業への参加報告が行われた。

1. 審議事項

（1）「ベストクラス」の選定について

①委員長から，第 4 回学生・教職員 F D 活動交流会の実施について，資料 2 及び 3 に基づき報告が行われた。

②委員長から，ベストクラスの選定について，資料 4 のとおり提案が行われ，意見交換の結果，原案を一部修正し，委員会案として学生・教職員 F D 活動交流会に提案することとされた。（別紙 F D 推進委員会案 参照）

また，授業評価結果を「ベストクラス」選定の資料として活用することについて，資料 5 及び 6（いずれも回収資料）に基づき説明が行われ，了承された。

③意見交換の結果，選定にあたっての留意事項は次のとおりとされ，明示はしないこととされた。

- ・機械的に基準数値で 10 科目程度抽出したうえで，高評価記述を参考に選定する。その後インタビューを実施し，その内容から更に選定するものとする。
- ・「ベストクラス」選定の資料として授業評価結果を活用する抽出条件に，履修者 5 人以下の授業科目の評価結果（おおむね「4」に近い数値となると予想される）の取り扱いについては，高評価記述の内容を加味しながら選定するものとする。
- ・高評価記述の選定作業及びインタビュー実施については，学生・教職員 F D 活動交流会メンバーにより選定科目の原案を作成した後，F D 推進委員会で審議するものとする。
- ・オムニバス授業についての評価は，当該授業科目として取り扱うものとする。
- ・履修年次が大学院 2 年次や学部 4 年次となるものについては，柔軟に対応するものとする。
- ・年度によって，選定の観点に柔軟性を持たせるものとする。

④「ベストクラス」とすることについて，次のとおり確認された。

- ・「ベストティーチャー賞」の選定が可能であるのかどうかについて検討を開始した。
- ・授業は誰のものであるのかについて議論を進める中で，授業は，教員のためだけのものではない，また学生のためだけのものでもない，教室にいる人々，授業を支える人々を含めてのものであるとの結論を得た。
- ・「賞」としては捉えず「ベストクラス」とする。

2. 報告事項

(1) 他大学のFD関連事業への参加について
会議冒頭で報告が行われた。

(2) 第4回学生・教職員FD活動交流会の実施結果について
審議事項(1)において報告が行われた。

3. その他

- ・次年度に向けての学生・教職員FD活動交流会メンバーの募集について、FD推進委員会委員から積極的に学生に声かけ願いたい旨の依頼が行われた。
- ・次回委員会については、3月中旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（平成 26 年度第 7 回）議事要旨

日 時 平成 2 7 年 3 月 1 3 日（金）14:50～16:10

場 所 総合研究棟 3 階中会議室兼セミナー室

出席者 吉水委員長，山中副委員長，福本委員，宮元委員，澁江委員，岡本委員，長瀬委員
伊藤委員
（欠席）鳥越委員

議 事

審議に先立ち、資料 1 に基づき、前回委員会の議事要旨（案）について確認が行われ、原案のとおり了承された。

引き続き、本年度の他大学の F D 関連事業への参加者は、資料 2 のとおりである旨の説明が行われ、前回委員会以降に実施された F D 関連事業への参加について、大西教授、吉岡教授、川内講師から、報告が行われた。

1. 審議事項

（1）「ベストクラス」の選定について

①委員長から、資料 3 及び 4 に基づき、第 5 回学生・教職員 F D 活動交流会の実施報告が行われた。

②委員長から、第 5 回学生・教職員 F D 活動交流会（2/27 開催）に、ベストクラスの選定について F D 推進委員会案として資料 5 のとおり提案した旨の報告が行われ、併せて原案のとおり了承された旨の報告が行われた。

③来年度の選定にかかる学生・教職員 F D 活動交流会の開催予定については、次のとおりとされた。

- ・第 1 回 高評価自由記述を検討して 1 0 科目程度の授業に絞り込む作業（5 月中旬頃）
- ・第 2 回 学生・教職員 F D 活動交流会メンバーが実施したインタビュー結果に基づく検討資料についての絞り込み作業（後日日程調整を行う）

以上の結果、来年度においては、資料 5 に基づいてベストクラスの選定を行うことが決定された。

なお、選定手続きに際し、前年度授業評価結果を参考とすることについては、3 月 2 5 日開催の全学教職員会議において、学長から周知願う旨の説明が行われた。

（2）平成 2 7 年度「学生による授業評価」マークカードの改訂について

委員長から、資料 6 に基づき改訂箇所について説明が行われ、原案のとおり了承された。

（3）平成 2 6 年度 F D 推進委員会活動報告書について

委員長から、資料 7 に基づき、平成 2 6 年度 F D 推進委員会活動報告書（案）を作成したことについて説明が行われ、内容等について意見がある場合は、3 月 2 7 日（金）までに教育支援課教務企画チームまで提出するよう依頼が行われた。

また、提出された意見の取り扱いについては、委員長に一任することとされた。
なお、本報告書は、4月中旬頃を目途に本学Webサイトで公表する旨の説明が行われた。

(4) 平成26年度年度計画実績評価票（最終報告）について

委員長から、資料8に基づき、年度計画実績評価票（最終報告）（案）について説明が行われ、意見がある場合は、3月27日（金）までに教育支援課教務企画チームまで提出するよう依頼が行われた。

また、提出された意見の取り扱いについては、委員長に一任することとされた。

2. 報告事項

(1) 他大学のFD関連事業への参加について

会議冒頭で報告が行われた。

(2) 学生・教職員FD活動交流会の実施報告について

審議事項（1）において併せて報告が行われた。

3. その他

- ・委員会の閉会にあたり、委員長から、本年度の委員会への協力について謝辞が述べられた。
- ・来年度の委員会については、4月下旬を目処に開催することとし、日程調整については別途行うこととされた。

以 上

兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会（第2回）の実施結果について

H26. 11. 14

目 的 このたびの研究会では、学外から専門家を招き、「学生・教職員FD活動交流会」で検討した内容を中心に、本学のFD活動内容に対する客観的な評価・批判を受けることで、FD活動の方向性を確認するとともに、今後に活かすことをねらいとした。

日時・内容 平成26年11月13日（木） 於：附属図書館 1階 ラーニングコモンズ PAO

16:30 開会・講師紹介

16:35 本学のFDの取り組みの概要と論点について

16:50 「学生参画FDの課題等について」

立命館大学教育開発推進機構 沖 裕貴 教授

17:20 「授業を支える知識観・学習観を問い直すーディープ・アクティブラーニングの提案ー」

京都大学高等教育研究開発センター 松下 佳代 教授

17:50 全体討論

18:25 本日のまとめ

18:30 閉会

周 知 方 法

- ・全教職員及び全学生あてメール
- ・本学Web サイト「本学のFD活動」に掲載
- ・学内掲示

参 加 者 数 49 名

(内訳) 学 生 29名 (FD活動交流会 参加学生 5名含む)

教 員 11名

事務職員 9名

第2回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会 アンケート（リアクションシート）集計結果

1. アンケート回答者数

学生 11名 教員 4名 事務職員 1名 合計 16名

【参考：アクティブ・ラーニング研究会への参加者数】

学 生 29名（FD活動交流会 参加学生 5名含む）

教 員 11名

事務職員 9名

合計 49名

2. 研究会の内容について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	5人	2人	0人
②参考になった	6人	2人	1人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①他大学のFDの様子，時代の流れが大変よくわかりました
- ②アクティブ・ラーニングについて形式上盛り上がっていること＝深い理解となるのかとずっと疑問に思っていました。外的側面だけでなく内的側面もアクティブであること，ということを示していただいて，自分がしていた授業をもう一度よかったところ，これから改善していくところを見直すことができました。
- ③ALについてよくわかりました
- ④数値化できない，しにくい能力に対する分析を教えていただいたので，役に立つと感じる。対論のようなものを期待していたが，講義形式だった。
- ⑤特に松下さんの話については自身の研究と関係のある部分だったので，とても参考になりました。
- ⑥自身の授業では表現活動が多いのですが，「考えて表現」というより，練習的要素が多く，生徒の反応は良くても，物足りなさを感じていました。deep learning の要素が欠けていることも原因だとわかりました。
- ⑦アクティブ・ラーニング，ディープの関係，お2人の先生方の違う例で，わかりやすく，意見などわかりやすく，知識や見聞が広がった。

- ⑧ALDがよく分かりました。
- ⑨私自身、「学び」について興味があります。学部時代、沖先生がご紹介いただいていた「ピアサポート論」教養授業のESを行っていましたが、授業及び学生と教授の関係性におけるあの活動の意味を改めて考え直すことができました。また、学生参画の考え方のエッセンスのエッセンスをいかに小学校教育に用いることができるかと考えた際、「双子の過ち」において少し通ずる部分があるように感じました。
- ⑩FDの交流会に参加させていただいて、総決算のように、自分の学びを確認することができた。現場での自分の授業を振り返ることができた。現在の自分の研究に関することも深まった。
- ⑪あらかじめ兵教大側の発表資料をお二人の先生に提示をしておいて下さったので非常にかみあった報告がされて良かった（深まった）と思う。とくにActiveであることDeepであることについて理論的に整理された。ただ、実際に具体的に授業（特に大人数授業）でそれを可能にするか、逆に悩みが深まってしまった気もする。
- ⑫わかり易い内容で、アクティブラーニングを考えるよい機会になった。これからも適宜、このような研究会を開催していただきたい。

3. 研究会会場について

	学 生	教 員	事務職員
①よかった	8 人	2 人	1 人
②よくなかった	3 人	2 人	0 人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①閉じた空間でなかったのも、直接参加しなくても、内容が他の学生・院生に伝わることもあったのではないのでしょうか。（ただ机があると書きやすかったと思います）
- ②狭く、机がないためメモがとりにくかったです
- ③見やすいが、机がほしいと感じた。
- ④教室とかでやるのもよいが、このような場で近くで受けれたので良かった。
- ⑤遅刻しても入りやすいというメリットはありましたが、周囲で自主学習をしている方々の私語が大きく、途中のお話がほとんど聞こえませんでした。ここの会場に設定されているにはそれなりの主旨があることは承知しておりますが、周囲の協力が得られなければ、質の良い学びにつながりにくいと思いました。
- ⑥大きいスライドで、とても見やすく、また、ふんいき的にも、とても良かった。
- ⑦仮設のイス、木の大きなイス等、特にかしこまりすぎないスペースの使い方に大変好印象を感じました。また照明の明暗度も場面に応じて使い分けられ、良かったです。

- ⑧学びの雰囲気の中で、思ったより集中できた。
- ⑨最初は周りがさわがしくて良くないかなと思われたが、会が進んでいく中で周りが「配慮」して下さったのか、こちらの集中力が上がったのか、気にならなくなった。むしろ、こうしたとりくみが参加者以外に露出できて、密室化されないメリットがあったと思う。
- ⑩少々、気が散った（まわりの話し声）
- ⑪正直、松下先生や一部の質問者の声はほとんど聞き取れませんでした。PA0 でやる意味はまったくなかったのではないかな。アクティブラーニングスタジオやオープンセミナールームを使った方がよかった。松下先生の話を楽しみにしていたのに非常に残念です。
- ⑫オープンスペースのため、聞きづらい時があった。

4. アクティブ・ラーニング研究会に関してその他ご意見をご自由にご記入ください。

（原文ママ）

- ①今後もこの会をつづけて開催してほしいです
- ②要は、AL を本学教員がとり入れるべきなのか？また、それを「ベスト」とみなすべきなのか？
- ③大学での講義のあり方ですが、自分の授業のしかたの参考になることがたくさんあります。
- ④こういう機会は貴重でした。
- ⑤講師がお二人というのはテーマの中身にくらべてつめ込みすぎでとてももったいなかったと思う。お一人ずつ、じっくりやった方よかったのではないかな。
- ⑥具体的な GP（授業例）などの報告・共有
- ⑦今回沖先生のお話にもあったように、良い取組の「共有」が今後もとめられていると思います。他大学の話は十分に勉強になりますが、全体的に考えるなら、もっと多くの教員を巻き込みながら good practice（兵教大全体としてのの）を作り上げていく、ということをしていく段階にあるのでは。もちろん沖先生も言われたとおり、教員の考え方によりいろんな good practice があってもよいが、ただ方向性（大学として何を目指すか）は必要と思う。FD では、抽象的な学習理論や教授方法の検討より、実践を重視し、研究面はそういうことを専門にする機関（他大学では高等教育研究センターなど）を設置して行った方がよいと思う。

H26年度 FD研究会等参加状況一覧

No.	所属	氏名	研究会等名称	日程	主催
1	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	吉水 裕也	関西地区FD連絡協議会第7回総会	2014/5/17(土)	関西地区FD連絡協議会
2	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	山中 一英	関西地区FD連絡協議会第7回総会	2014/5/17(土)	関西地区FD連絡協議会
3	教育支援課	中西 光範	関西地区FD連絡協議会第7回総会	2014/5/17(土)	関西地区FD連絡協議会
4	教育支援課教務企画チーム	廣田 由津子	関西地区FD連絡協議会第7回総会	2014/5/17(土)	関西地区FD連絡協議会
5	教育支援課教務企画チーム	小平 健太郎	関西地区FD連絡協議会第7回総会	2014/5/17(土)	関西地区FD連絡協議会
6	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	隈元 みちる	関西地区FD連絡協議会共催事業 「授業の基本」+「成績評価」ワークショップ	2014/8/7(木)	神戸薬科大学
7	教職キャリア開発センター	横山 香	第4回大学コンソーシアム八王子FD・SD フォーラム	2014/8/29(金) ～2014/8/30(土)	八王子市学園都市センター
8	教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	川内 充延	関西地区FD連絡協議会共催事業 第4回授業デザインワークショップ「よりよい授 業のデザインと実践を身につける」	2014/9/1(月) ～2014/9/3(水)	大阪大学教育学習支援センター
9	教育支援課	藤木 裕一	平成26年度「桃太郎フォーラムX V II」～学 習達成度の評価を考えるー教育を変える、学 生が伸びるー～	2014/9/25(木)	岡山大学教育開発センター
10	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	安原 一樹	平成26年度「桃太郎フォーラムX V II」～学 習達成度の評価を考えるー教育を変える、学 生が伸びるー～	2014/9/25(木)	岡山大学教育開発センター
11	教育内容・方法開発専攻 文化表現系教育コース	寺尾 裕子	大阪大学教育学習支援センターFDセミナー 「ルーブリック評価入門ー時短・ブレない・公平 な評価方法」	2014/11/27(木)	大阪大学教育学習支援センター
12	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	大西 義則	関西大学 第12回FDフォーラム「21世紀を 生き抜く考動人<Lifelong Active Learner> を育成するためにー未来を切り開く交渉学ー」	2015/2/21(土)	関西大学教育開発支援センター
13	教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	川内 充延	関西大学教育開発支援センター主催シンポジ ウム「反転学習はディープ・アクティブラーニン グを促すか？」	2015/2/24(火)	関西大学教育開発支援センター
14	教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	吉岡 秀文	関西大学教育開発支援センター主催シンポジ ウム「反転学習はディープ・アクティブラーニン グを促すか？」	2015/2/24(火)	関西大学教育開発支援センター
15	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	黒岩 督	神戸大学大学教育推進機構主催講演会「今 なぜアクティブ・ラーニングか」	2015/3/5(木)	神戸大学大学教育推進機構
16	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	大西 義則	神戸大学大学教育推進機構主催講演会「今 なぜアクティブ・ラーニングか」	2015/3/5(木)	神戸大学大学教育推進機構

本学におけるアクティブ・ラーニングの主な取り組み事例（平成 26 年度）

No.	取組名称	取組の趣旨	取組内容（講座名等）
1	課外プログラム「通常学級の特別支援教育」 【資料 12-1】	2013 年度から 3 カ年の予定で文部科学省委託事業「発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業」として、教員養成段階における発達障害に関する専門的・実践的知識を習得するための課外プログラムを実施している。 最終的な到達目標は、通常学級において発達障害を踏まえた授業の工夫・学級経営ができる基本的実践力を身につけることである。	・参加対象者：本学学部 2 年次生 ・期間：平成 25 年度から 3 ヶ年 ・課外プログラム参加者は、プログラム関連科目 5 つを受講する。 ①「通常学級における子どもの教育ニーズ」（課外授業） ②「発達障害の理解」（学部授業科目） ③「通常学級における特別支援教育の実践演習」（課外授業） ④「実地教育Ⅳ（応用教育実習）」（学部授業科目） ⑤「教職実践演習」（学部授業科目） ・全ての科目を修了した学生には、卒業時に課外プログラム修了認定書を交付する。
2	キャリアデザイン講座 【資料 12-2】	学生及び院生を対象に、幅広い知識や教養、マナー、コミュニケーション力などの社会人として必要な知識を身に付けたり、卒業生・修了生や現職教員から教育現場の実践を学び、教職に対する心構えを築き、学校現場等におけるスキルを取得するために企画している課外活動講座。	2014 年度取組内容 ・信頼ベースの学級ファシリテーション（基礎編） ～振り返りジャーナルや絵本の読み聞かせを活用した学級経営～ ・信頼ベースの学級ファシリテーション（応用編） ～ファシリテーションを活用した授業（言語活動）の進行～ ・ファシリテーション基礎講座～対話を通じた仲間づくり～ ・ブックトーク入門～本の感動を子どもたちに伝えよう ・教員採用試験にも出ました！今、話題の書評ゲーム！ ビブリオバトル入門講座

3	アカデミックカフェ 【資料12-3】	学生が自ら学ぶという姿勢や気風にあふれた「アカデミックなキャンパス」の創発を促し、幅広い教養を学生に対して培う機会を与えること、その機会を学生自ら作り出すことを目的とし、「カフェ」と呼ばれる双方向型コミュニケーションによる少人数の講座を2011年度から毎年複数開催している。また、その講座の企画・運営を学生が実施する。	2014年度取組内容 ・能力主義に正義はない ・夏の始めの天体観測 ・暗記ではなく考える地理 ・すてきな絵本を探そう
4	Learning Activation Project 【資料12-4】	学生の「好奇心」や「学びたい」という意欲を喚起する知的活動を企画・運営するプロジェクトであり、学生ボランティア14名とサポートスタッフ1名で運営している。	2014年度にはLAPワークショップとして、以下を開催した。 ・第1弾「学び、まなび、マナビ ～学びって何だろう～」 ・第2弾「時間」 ・第3弾「家族」 ・第4弾「話す・聴く」 ・第5弾「恋愛」



兵庫教育大学特別支援教育モデル研究開発室

課外プログラム「通常学級の特別支援教育」募集要項

特別支援教育モデル研究開発室ならびに特別支援教育コーディネーターコースでは、文部科学省から「発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業」の委託を受けて、以下の課外プログラム「通常学級の特別支援教育」を実施します。

対象：学部2年次生

期間：平成25年度から3カ年

○プログラムへ参加する効果

3カ年のプログラムを経験することによって、発達障害のある子どもに関する基本的理解をふまえて、授業や学級経営の工夫ができることを目指します。

○プログラムの概要

発達障害のある子どもがクラスにいることをふまえて、小学校教員として必要とされる授業づくりや学級経営について課題意識を持って主体的に学びます。まず、クラスでの子どもの気になる行動に関する認識を高め、発達障害に関する知識を学びます。実際に、学校現場での授業場面の課題を見据えた上で、教師-子ども関係について演劇を通してシミュレートするワークショップを体験します。これらを通して、クラスでの対応についての考え方を深め、実地教育Ⅳ（応用教育実習）の経験のなかでの学習に活かします。さらに、教職実践演習においても特別支援教育の観点で省察の機会を持つ予定です。以上の学びを経て、初任者にとって必要な実践力を磨いていきます。

課外プログラム参加者（以下、P参加者）は、プログラム関連科目5つすべてを受講してください。

なお、P参加者には、データの収集（写真やビデオ撮影、アンケート記入など）への協力をお願いすることになります。

全ての科目を履修したP参加者には、卒業時に課外プログラム「通常学級の特別支援教育」修了認定書を交付します。

○プログラムのスケジュール

2014/03 2年次（5コマ、1日で実施）

※「通常学級における子どもの教育ニーズ」(課外授業)

クラスでの子どもの気になる行動について

グループワーク（院生がアドバイザーとしてつきます）

↓（課題を認識する）

2014/04～ 3年次前期（15コマ）

「発達障害の理解」（学部授業科目）

基本的に講義形式、教師経験者による実践事例紹介と座談会

学校ボランティア経験のある学生へのアンケートを活用

P参加者は、「通常学級における子どもの教育ニーズ」での学びを紹介

↓（特性理解や基本的な授業の工夫について知る）

2014/10～ 3年次後期（15コマ、原則として週1コマ）

※「通常学級における特別支援教育の実践演習」(課外授業)

プロジェクト型学習（院生がアドバイザーとしてつきます）

学校訪問（クラスの見学と聞き取り）と演劇づくり

↓（授業場면을シミュレートする）

2015/10～ 4年次後期（3週間）

「実地教育Ⅳ（応用教育実習）」（学部授業科目）

P参加者へ「通常学級の特別支援教育実習ガイドブック」を提供

↓（授業場面の実際を経験する）

2015/10～ 4年次後期（15コマ）

「教職実践演習」（学部授業科目）

P参加者は特別支援教育の観点での振り返りを予定

↓（経験した授業場面について省察する）

※（課外授業）：プログラム参加者のみ（学部教育課程の履修単位とはなりません）

~~~~~：既存授業でのP参加者向け活動

# 信頼ベースの学級ファシリテーション

クラスが1つのチームになってゴールをめざす。そのプロセスで、子どもたちの心の体力を温め、力や意見を引き出しながら学び合う信頼ベースのクラスをつくる。そのためには、先生がファシリテーターになることが有効です。本講座では、先生がファシリテーターとしての具体的な技術を身につけ、学級経営や授業を進める方法を学びます。

## 基礎編

～振り返りジャーナルや絵本の  
読み聞かせを活用した学級経営～

**12月13(木) 16:30～19:00**  
**総合研究棟3階 大会議室**

大阪市教育センター指導主事  
**宮浦 利行**

定員25名



## 応用編

なるべく(基礎編)と併せて受講してください

～ファシリテーションを活用した  
授業(言語活動)の進行～

**12月20(木) 16:30～19:00**  
**総合研究棟3階 大会議室**

人まちファシリテーション工房  
**ちゃん せいこ**

定員25名



# ファシリテーション基礎講座

## 「対話を通じた仲間づくり」



教育、行政、地域、企業とあらゆる組織や集団において、協働という名の知的な相互作用を活性化し、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、学習、変革、自己表現・成長という知識創造プロセスを支援し促進していく働きであるファシリテーションが重要性を増しています。

講座では、ファシリテーション野理論、意義、必要性、スキル（場づくり、対人関係、論点の構造化、分かちあい）、効果などについて学びます。

また、演習をつうじてファシリテーションの醍醐味を体験・体得していきます。

平成26年2月5日（水）

16:30～19:30

場所

オーフンセミナールーム

九州大学客員准教授  
日本ファシリテーション協会フェロー

講師

加留部 貴行



ようこそ先輩

本の面白さを子どもたちへ伝える人に!!

# ブックトーク入門

ブックトークとは、ある一定のテーマに沿って関連する本を紹介していくものです。  
ブックトークの目的は、「その本の内容を教えること」ではなく、「その本の面白さを伝え、聞き手にその本を読みたいという気持ちを起こさせること」です。

本講座では、聞き手の読書への興味をかきたてる「ブックトーク」について学びます。

全学生対象

～本の感動を子どもたちに伝えよう①～

12/3(月)16:30～18:30

オープンセミナー

(総合研究棟 1 階)

※12/3(月)とセット(①)を受講していること

定員  
各20名

～本の感動を子どもたちに伝えよう②～

12/17(月)16:30～18:30

オープンセミナー

(総合研究棟 1 階)

講師

神戸親和女子大学教授

笹倉 剛

本学大学院修了生。黒田庄町立黒田庄中学校勤務後、兵庫県立図書館主任調査専門員などを経て、現職。その他、北はりま「子どもの本の学校」主宰など。

読みたい児童書や絵本のナンバーワンをみんなで決めよう！

教員採用試験にも出題された

# ビブリアオ バトル入門講座

説明編

12／1（月） 16:30-18:30

発表編

12／15（月） 16:30-18:30

※12／1（月）の説明編を受講してください！！

オープンセミナールーム

定員20名

講師

神戸親和女子大学

**笹倉 剛**

ビブリアオバトルとは？

本の紹介者が一押しの本を1冊ずつ紹介し、みんなで一番読みたくなった本「チャンプ本」を決定します！

本学大学院修了生。  
黒田庄町立黒田庄中学校勤務後、兵庫県立図書館主任調査専門員などを経て、現職。その他、北はりま「子どもの本の学校」主宰など。





自力ではちょっとしんどい内容も、雑談の中では教養として身につくと思いませんか？  
専門家と双方向の会話形式の中で、あなたの知識を深めませんか！

## 暗記ではなく考える地理

7月2日(水)

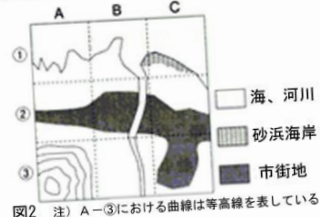
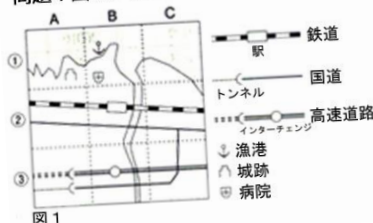
16:30~18:00

学生ホール(総合研究棟 1F)

定員 10名

吉水 裕也 先生

問題：図1、図2に示される地域に工場を建てるならどこがいいと思いますか？



あなたの地理のイメージは？三角州、特産物、地中海性気候 ☒ ☕ ☘ …。上の問題、あなたならどこに工場を建てますか？地理オリンピック実行委員の吉水先生と「考える地理」を楽しみませんか。

## すてきな絵本を探そう

7月4日(金)

16:30-18:00

学生ホール(総合研究棟 1F)

定員 10名



羽田 潤 先生

興味はあるけどなかなか読む機会がない、いい絵本ってどんな絵本なの？絵本に対してそんな思いを持っているあなた!!!  
羽田先生と一緒に、おすすめの絵本を探してみませんか。

主催：アカデミックカフェ実行委員会

TEL:0795-44-2370 E-mail: career-kouza@hyogo-u.ac.jp

☆申込みはメールもしくは、キャリアセンター（総合研究棟2階）でお申し込みください！！

# アカデミックカフェ (A' Cafe)

自力ではちょっとしんどい内容も、雑談の中では教養として身につくと思いませんか？  
専門家と双方向の会話形式の中で、あなたの知識を深めませんか！

## 谷田 増幸先生を囲んで 「能力主義に正義はない!？」



「できる、できないで評価される世の中で、本当にすべての人が幸せに暮らせるの？例えば、部活のレギュラー、補欠などで悩んだことはない？

また、クラスで算数が得意な子や苦手な子がいる中で、児童をどう評価していけばいいのだろう？」

**6/19(水)15:30~17:00**

**学生ホール(総合研究棟1階)**

## 竹村 静夫先生と一緒に



## 「夏の始めの天体観測」

～見上げてみよう夜空の星を～



自然棟の天体ドーム・大型天体望遠鏡で星の観察をしませんか？

今年の夏は、土星観測がとても好条件です。

月や初夏の星も観察できます。

明日から夜空の見方が変わる！兵教大の静かな夜を堪能しましょう。

**6/17(月)19:30~21:00**

**自然棟520号室**



主催：アカデミックカフェ実行委員会

TEL:0795-44-2370 E-mail:office-career@hyogo-u.ac.jp

☆申込みはメールもしくは、キャリアセンター（総合研究棟2階）でお申し込みください！！



ラッパ・ワークショップ 第1弾

# 学び、まなび、マナビ 学びってなんだろう

あなたは普段の生活の中で、学びたいのに行動に移せなかったり、何が学びたいのか分からなくてモヤモヤしたりすることはありますか？そもそも学びって何？学ぶ意味ってあるの？と感じている人もいるかもしれません。

今回は、「学び、まなび、マナビ～学びってなんだろう～」をテーマに、いろんな人と対話していく中で自分の学ぶ姿勢に対して考えたり、学びたいことを整理したりしていきます。  
「1つでも自分の学びたいことに気づける」「ちょっと何かやってみようかなというキッカケになる」そんなプログラムです！

LAP 第一回目!! みんなが初心者です。  
今回の企画に参加して、一緒に LAP を盛り上げていきませんか？



## 日時

6月10日(火) 14:50～16:20

## 場所

図書館1階ラーニングコモンズ PAO  
セミナーエリア付近

## 主催

兵庫教育大学附属図書館

## 参加人数

20名(本学学生のみ)

## 参加方法

- ◆開催日までに LAP スタッフ、または、PAO サポートデスクへ直接参加の旨をお伝えください。
- ◆当日参加もできます。ただし、定員を超えた場合は申込者優先といたします。予めご了承ください。
- ◆Eメールで申し込みをする方は、(1)～(3)の項目を記入の上、  
「office-tosyo-r@hyogo-u.ac.jp」へ送付ください。  
(1) 氏名 (2) 学籍番号 (3) 所属/コース

**LAPとは？ >>>**  
(ラッパ)

Learning Activation Project (通称: LAP) とは、図書館を中心とした学びの活性化に向けたプロジェクトです。「好奇心」や「学びたい」という意欲をかきたてる知的活動を企画・運営しています。





# ラップ・ワークショップ第2弾 「時間」

## 7月14日(月)

## 9:00-10:30

みなさんは、時間うまく使えていますか？ そもそも「うまい」時間の使い方でなんだろう？ いつも計画通りできないんだよねー。長い休みや空いた時間ってみんな何してるだろう？

今回は一番身近な「時間」をテーマにしたワークショップを開催します。議論ではなく、自分の意見を話してみたり、みんなのお話をきくゆったりした場です。聞くだけでもOK さあ一歩踏み出して、図書館へGO!



### 場 所

図書館1階ラーニングcommons PAO  
セミナーエリア付近

### 参加人数

20名(本学学生のみ)

### 主 催

兵庫教育大学附属図書館

### 参加方法

- ◆開催日までにLAPスタッフ、または、PAOサポートデスクへ直接参加の旨をお伝えください。
- ◆当日参加もできます。ただし、定員を超えた場合は申込者優先といたします。予めご了承ください。
- ◆Eメールで申し込みをする方は、(1)～(3)の項目を記入の上、office-tosyo-r@hyogo-u.ac.jpへ送付ください。
- (1)氏名(2)学籍番号(3)所属/コース

### ラップとは？

Learning Activation Project(通称:LAP)とは、図書館を中心とした学びの活性化に向けたプロジェクトです。「好奇心」や「学びたい」という意欲をかきたてる知的活動を企画・運営しています。



あなたにとって家族ってどんな存在ですか？

何を与えてくれますか？

もしも家族がいなくなってしまうらどうなるのでしょうか？

そもそも、そんなこと考えたことないという人もいるかもしれません。

LAP第3回では、身近な「家族」をテーマとしています。

ワークショップでの対話を通して、自分にとっての家族とは何かについて考え、  
新たな気づきを得ていきます。

アットホームな場で、みんなで対話し、一緒に学んでいきましょう。



# 「家族」

ラップ・ワークショップ第3弾



## 10月15日(水) 14:50~16:20

《場 所》

図書館1階ラーニングcommonsPAO セミナーエリア付近

《主 催》

兵庫教育大学附属図書館LAPメンバー

《参加人数》

20名(本学学生のみ)

《参加方法》

- ・開催日までにLAPスタッフ、または、PAOサポートデスクへ直接参加の旨をお伝えください。
- ・当日参加もできます。ですが、定員を超えた場合は申込者優先といたします。予めご了承ください。
- ・Eメールで申し込みをする方は①氏名②学籍番号③所属/コースの項目を記入の上「office-tosyo-r@hyogo-u.ac.jp」へ送付ください。

## LAPとは？



Learning Activation Project (通称:LAP)とは、図書館を中心とした学びの活性化に向けたプロジェクトです。「好奇心」や「学びたい」という意欲をかきたてる知的活動を企画・運営しています。



HANASUZARU

——「話す・聴く」って大切だなあ。

人とかわっていく中で、そんな風に感じることはありませんか？自分自身の「話す・聴く」姿って、周りからどんなふうに見えるのだろう？そもそも、「話す・聴く」ってなぜ大切なんだろう？LAP第4回では、「話す・聴く」をテーマとしています。ワークショップでの対話を通して、自分にとっての「話す・聴く」を見つめなおすことで、考えるきっかけをもらったり、新たな気づきを得たりします。アットホームな場で、みんなで対話し、一緒に学んでいきましょう。

ラップ・ワークショップ第4弾

# 「話す・聴く」

11/11 (火)  
16:30  
~18:00

KIKUZARU

《場 所》 図書館1階ラーニングcommonsPAO  
セミナーエリア付近

《主 催》 兵庫教育大学附属図書館

《参加人数》 20名(本学学生のみ)

《参加方法》

- ・ 開催日までにLAPスタッフ、または、PAOサポートデスクへ直接参加の旨をお伝えください。
- ・ 当日参加もできます。ですが、定員を超えた場合は申込者優先といたします。予めご了承ください。
- ・ Eメールで申し込みをする方は①氏名②学籍番号③所属/コースの項目を記入の上「office-tosyo-r@hyogo-u.ac.jp」へ送付ください。



LAPとは？

Learning Activation Project (通称:LAP)とは、図書館を中心とした学びの活性化に向けたプロジェクトです。「好奇心」や「学びたい」という意欲をかきたてる知的活動を企画・運営しています。



-12月WSねらい-

「他の人の恋愛観について  
知ること、自分の恋愛に関する  
価値観に気づき、深める」

ラップ・ワークショップ第5弾

# 「恋愛」

あなたは恋愛をしていますか？

そもそも恋愛ってなんだろう。

恋と愛の違いってなんだろう、そんなことを考えたことがある人もいると思います。

LAP第5回では「恋愛」をテーマとしています。

恋愛ってものについて話してみたい！

いろんな人の意見を聞いてみたい！

そんな方はぜひ図書館へ足を運んで

アットホームな場でみんなで対話しましょう。

日時

12月17日(水) 4限 14:50～16:20

12月19日(金) 5限 16:30～18:00 \*二回開催します

♥ 場 所 図書館1階ラーニング commons PAO  
セミナーエリア付近

♥ 主 催 兵庫教育大学附属図書館

♥ 参加人数 20名(本学学生のみ)

♥ 参加方法

- ・開催日までにLAPスタッフ、または、PAOサポートデスクへ直接参加の旨をお伝えください。
- ・当日参加もできます。ですが、定員を超えた場合は申込者優先といたします。予めご了承ください。
- ・Eメールで申し込みをする方は①氏名②学籍番号③所属/コースの項目を記入の上、  
「office-tosyo-r@hyogo-u.ac.jp」へ送付ください。



LAPとは？

Learning Activation Project (通称:LAP)とは、図書館を中心とした学びの活性化に向けたプロジェクトです。  
「好奇心」や「学びたい」という意欲をかきたてる知的活動を企画・運営しています。



平成 27 年 1 月 7 日

学生・教職員 各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

## 学内 F D 研修会（ロイロノート・デモ）の開催について

このたび、本学の F D 活動の取り組みの一環として、ロイロノート※（アプリ）の基本的使用に関する研修会（デモンストレーション）を開催しますので、参加希望者は、下記により申し込み願います。

この研修会は、吉田達弘教授（言語系教育分野・英語）の研究室とのコラボレーション企画です。研修会には、F D 推進委員会からの募集枠 10 名以外に吉田研究室の皆さんが 10 名参加予定です。

## 記

日 時 : 平成 27 年 2 月 6 日（金）15 時～17 時

場 所 : 教育・言語・社会棟 122 室

募集人数 : 10 名（先着順）

無線 LAN 環境の制約などにより、募集人数を上記のとおりとします。

なお、各自タブレット端末を持参してください。

参加費 : 無料

申し込み : 電子メールに所属（学籍番号）と氏名を明記して、教育支援課教務企画チーム office-kkikaku-t@hyogo-u.ac.jp までお申し込みください。

※ ロイロノートとは、iPad に対応した iOS アプリケーションで、教育現場での使用に特化したアプリです。（参考：[http://loilo.tv/jp/product/ipad\\_edu\\_note](http://loilo.tv/jp/product/ipad_edu_note)）

なお、現時点でロイロノートを本学の情報システム等に導入する予定はありません。

## 平成26年度 教職大学院授業改善・FD委員会 活動実績

| 活動領域               | No. | 活動項目                          | 種類 | 計画内容                                                               | 達成基準                                  | 評価 |
|--------------------|-----|-------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|----|
| 1<br>研修会等<br>によるFD | 1   | 他大学FD活動の情報収集                  | 継続 | ・他大学のFD協議会やFDシンポジウムから情報収集。                                         | 年間2回                                  | B  |
|                    | 2   | 教員向けFDセミナーの開催                 | 充実 | ・専攻会議でのFD活動取組状況研修<br>・eポートフォリオ活用研修会実施。<br>・全学FD委員会の活動と連携。(FD授業公開等) | 年間5回以上。各種活動への参加者150人以上。               | A  |
|                    | 3   | eポートフォリオの活用                   | 充実 | ・eポートフォリオの活用した学生との双方向のやり取りの実現。(新システムへの移行に際する提案・提言)                 | 学生と教員が使用可能な状態。<br>(提案・提言10件以上)        | A  |
| 2<br>授業評価<br>によるFD | 4   | 授業評価結果と改善案の学生報告               | 継続 | ・授業評価結果と、改善方策を学生に提示。                                               | 4月14日に実施。                             | A  |
|                    | 5   | 「共通基礎科目」と「専門科目」の授業評価実施(前期・後期) | 継続 | ・評価ソフトを活用して、「教育課程」「共通基礎科目」「専門科目」について、教員自己評価と学生からの授業評価を実施。          | 外部評価委員会・教員会議(FD研修会)で評価結果報告。担当教員に結果開示。 | A  |
|                    | 6   | 「実習科目」「課題研究」の授業評価実施(後期)       | 継続 | ・評価ソフトを活用して、「実習科目」「課題研究」について、教員自己評価と学生の授業評価、実習校評価の多面評価実施。          | 学生回収率90%以上。                           |    |
|                    | 7   | 評価ソフトの改善                      | 継続 | ・評価ソフトの運用の利便さを目指したシステムの改善。                                         | 平成26年12月改善完了。<br>(「まとめ・改善策」出力パターンの充実) | A  |
|                    | 8   | 修了生に対する教育成果調査の実施              | 充実 | ・修了生に対する教育成果調査システムを開発・実施。                                          | 平成26年7月-8月に調査を実施し、結果を公表。              | A  |
|                    | 9   | FD委員会で、学生からの意見聴取              | 継続 | ・FD委員が各コースの学生から、教育課程や授業科目への要望・意見を聴取。                               | 12月に、専攻長、副専攻長(FD委員長)で実施。              | B  |
|                    | 10  | 実習・課題研究の改善                    | 充実 | ・実習や課題研究の改善を実施                                                     | 学生や実習校の評価結果の向上。                       | B  |
| 3<br>外の風によるFD      | 11  | 教育実践高度化専攻の授業公開                | 継続 | ・公開授業やゼミ公開等実施。(年間2回)<br>・授業公開を学部FD委員会と連携実施。                        | 5月と10月に、4コースで公開授業等を実施。                | B  |
|                    | 12  | 各種媒体で、教職大学院情報の露出              | 継続 | ・新聞や専門誌、また学会等のパネルで、教職大学院情報を積極的に発信。                                 | 3回以上。                                 | B  |
|                    | 13  | 全学公開授業週間への積極的な参加              | 継続 | ・全学で実施する公開授業週間に積極的に関与し、授業公開を推進。                                    | 今年度は実施せず。                             | C  |

(註1) S：計画を上回った進捗、A：計画通り、B：おおむね計画通り、C：計画を下回った進捗。

(註2) 上記表中の網掛け部分は、教育課程・授業評価に直接関連する項目。

## 平成26年度前期「学生による授業評価」実施結果

## 1. 実施時期

7月1日～前期科目終了まで

(7月1日以前に授業が終了する場合は、終了の1週間前に調査票を配付し、随時実施)

## 2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が教育支援課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

## 3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

今年度からの授業評価調査票の記入者欄の改訂に伴い、従来の授業科目毎の集計結果に加えて、当該授業への「出席回数11～15回」をマークした学生の回答を集計し、履修者全員の集計結果と比較できるようにした。

## 4. 実施結果（10月8日時点）

|                  |      |
|------------------|------|
| 対象科目数（A）         | 420  |
| 実施科目数            | 399  |
| 未実施科目数（B）        | 21   |
| 未実施科目割合（（B）÷（A）） | 5.0% |

## ※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（19名）
- ・ アンケート調査を配付する前に終了していた。（2名）



平成26年度前期「学生による授業評価」における自由記述  
主な記述一覧（学部）

対象科目数 222 科目 実施科目数 210 科目 回答件数のべ 6,057 件 自由記述件数 268 件

内容については、  
学内でのみ公表しております。

平成26年度前期「学生による授業評価」における自由記述  
主な記述一覧（大学院）

対象科目数 198 科目 実施科目数 189 科目 回答件数 のべ 2,797 件 自由記述件数 571 件

内容については、  
学内でのみ公表しております。

## 平成26年度後期「学生による授業評価」実施結果

## 1. 実施時期

1月8日～後期科目終了まで

(1月8日以前に授業が終了する場合は、終了の1週間前に調査票を配付し、随時実施)

## 2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が教育支援課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

## 3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

今年度からの授業評価調査票の記入者欄の改訂に伴い、従来の授業科目毎の集計結果に加えて、当該授業への「出席回数 11～15 回」をマークした学生の回答を集計し、履修者全員の集計結果と比較できるようにした。

## 4. 実施結果（最終集計結果）

|                  |      |
|------------------|------|
| 対象科目数（A）         | 381  |
| 実施科目数            | 349  |
| 未実施科目数（B）        | 32   |
| 未実施科目割合（（B）÷（A）） | 8.3% |

## ※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（29名）
- ・ アンケート調査を配付する前に終了していた。（3名）

平成26年度後期「学生による授業評価」における自由記述  
主な記述一覧（学部）

対象科目数 216 科目 実施科目数 199 科目 回答件数のべ 6,044 件 自由記述件数 359 件

内容については、  
学内でのみ公表しております。

平成26年度後期「学生による授業評価」における自由記述  
主な記述一覧（大学院）

対象科目数 165 科目 実施科目数 150 科目 回答件数のべ 2,115 件 自由記述件数 377 件

内容については、  
学内でのみ公表しております。



## 授業の評価について

本学では、授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

複数の教員が分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をしてください。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入してください。

なお、この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

授業科目名

記入者について（該当する箇所に鉛筆でマークしてください。）

| 所 属                     |             |        |        |        |
|-------------------------|-------------|--------|--------|--------|
| 学部                      | 「大学院」<br>現職 | 現職以外   | 科目等履修生 | 特別聴講学生 |
| あなたは、この授業にどれくらい出席しましたか。 |             |        |        |        |
| 1～4回                    | 5～10回       | 11～15回 |        |        |

この授業に関して、下記の項目①～⑧について、次の4段階で評定し、数字の欄に鉛筆でマークしてください。

※項目⑧については教員の指示に従ってください。

|                                | 4<br>そのとおり | 3<br>ほぼそのとおり | 2<br>あまりそうではない | 1<br>そうではない |
|--------------------------------|------------|--------------|----------------|-------------|
| ① この授業は、目的がはっきりしていた。           | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ② 授業内容は、目的にふさわしい内容だった。         | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ③ 教員の説明は、わかりやすかった。             | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ④ テキスト・プリント等や教材・教具は役立った。       | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ⑤ 教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた。  | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ⑥ 成績評価の基準・手続きが示された。            | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ⑦ この授業からものの見方や考え方について知的刺激を受けた。 | 4          | 3            | 2              | 1           |
| ※⑧ 安全への配慮・指導がなされていた。           | 4          | 3            | 2              | 1           |

## 自由記述欄

その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

## 「授業の評価について」集計結果【大学用】

平成26年度前期

科目番号:

科目名: AAAA

担当教員名:

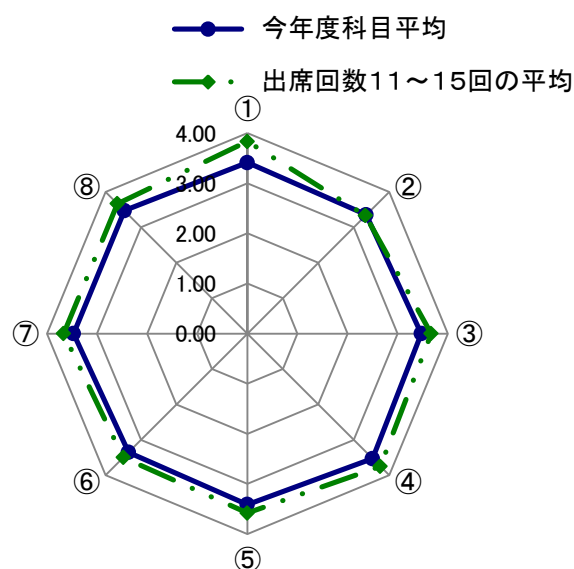
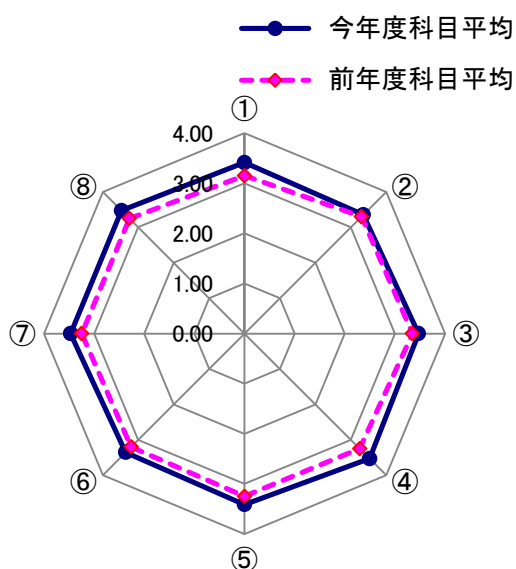
履修者数: 20 名

回答者数: 17 名

| 所属 | 学部 | 大学院<br>現職 | 大学院<br>現職以外 | 科目等<br>履修生 | 特別<br>聴講学生 |
|----|----|-----------|-------------|------------|------------|
|    | 17 | 0         | 0           | 0          | 0          |

| 出席 | 1～4回 | 5～10回 | 11～15回 |
|----|------|-------|--------|
|    | 2    | 3     | 12     |

| 4<br>そのとおり | 3<br>ほぼそのとおり | 2<br>あまりそうではない | 1<br>そうではない | 今年度科目平均 | 出席回数11～15回の平均 | 前年度科目平均 |
|------------|--------------|----------------|-------------|---------|---------------|---------|
| 7 (10)     | 10 (2)       | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.41    | 3.83          | 3.15    |
| 6 (4)      | 11 (8)       | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.35    | 3.33          | 3.30    |
| 8 (8)      | 9 (4)        | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.47    | 3.67          | 3.35    |
| 9 (9)      | 8 (3)        | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.53    | 3.75          | 3.25    |
| 7 (7)      | 10 (5)       | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.41    | 3.58          | 3.25    |
| 6 (6)      | 11 (6)       | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.35    | 3.50          | 3.20    |
| 8 (8)      | 9 (4)        | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.47    | 3.67          | 3.25    |
| 8 (8)      | 9 (4)        | 0 (0)          | 0 (0)       | 3.47    | 3.67          | 3.25    |



教員のコメント

## 第2回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

## 《検討の目的》

本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索していく。

## 《開催日時・場所》

平成26年6月25日（水） 12:20～14:00 嬉野生活会館 多目的ホール

## 《会議形式》 ランチミーティング

|       |     |      |              |    |
|-------|-----|------|--------------|----|
| 《参加者》 | 17名 | (内訳) | 学部学生（2～4年次生） | 4名 |
|       |     |      | 大学院学生        | 4名 |
|       |     |      | 教員           | 5名 |
|       |     |      | 事務職員         | 4名 |

## 《実施内容》

## 1. 前回の検討内容の共有

## 2. グループでの議論

- ① 第1回の議論を踏まえ、グループごとにどのような意見が出されたのかを共有した上で、共通する点として、「アクティブ」と「ディープ」な学びの関係性をどう考えるのか、「教えること」と「知を生み出すこと」のバランスをどう考えるのかについて、各グループで議論した。
- ② それ以外にも、議論すべき論点があるのかを議論した。

## 3. 全体での議論

- ① グループでの議論の結果及び新たに発見した論点に関するグループでの議論の結果を共有した。
- ② 「それぞれの授業のよい点を洗い出す、自慢をする」「相対評価をして序列を決めるべきではない」「別のクラスと比較すべきではない」という意見は、どういう考えが根底にある意見なのかについて、議論した。

## 4. 第1回及び第2回の検討内容で共有した事項（まとめ）

- ① 「ベストクラス賞」を作することを前提としないで、「ベストクラス」という概念で「ベストクラス」を選ぶことができるのかどうかについても、皆で考える必要がある
- ② 「ベストクラス」を一つに絞る必要はない
- ③ 相対評価をして序列を決めるものではない
- ④ 多様な基準を設けるべき
- ⑤ 「ベストクラス」の選定については、そのクラスがなぜベストなのかを説明できるような仕組みをつくるべき

## 5. 次回の内容について

- ① 次回は、これまでの検討内容について、学外のFD関連等の専門家(研究者)を招き、ワークショップを開催することとされた。
- ② 次回開催予定は、10月中下旬頃とされた。

## 第4回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

今年度の学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があって、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

### 《開催日時・場所》

平成27年1月22日（木） 12:20～14:00 総合研究棟3階中会議室兼セミナー室

### 《会議形式》 ランチミーティング

|       |     |      |              |    |
|-------|-----|------|--------------|----|
| 《参加者》 | 17名 | (内訳) | 学部学生（2～4年次生） | 1名 |
|       |     |      | 大学院学生        | 5名 |
|       |     |      | 教員           | 7名 |
|       |     |      | 事務職員         | 4名 |

### 《実施内容》

1. 第2回及び第3回（第2回アクティブ・ラーニング研究会への参加）の内容の共有が行われた。
2. 配付資料に基づき、アクティブ・ラーニング研究会および第5回FD推進委員会での議論の報告及び意見交換が行われた。（詳細については「第4回学生・教職員FD活動交流会会議記録」のとおり）
3. 次回の内容について
  - ①次回は、今回話し合ったベストクラス（またはグッドプラクティス）の選定手続きをについて、FD推進委員会で方向づけと修正を行い、FD活動交流会で報告し、次年度に繋げることとされた。
  - ②次回の開催予定は、3月上旬頃とされた。

## 第5回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

今年度の学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があって、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

### 《開催日時・場所》

平成27年2月27日（金）12：20～14：00 総合研究棟3階中会議室兼セミナー室

### 《会議形式》 ランチミーティング

|       |     |      |              |    |
|-------|-----|------|--------------|----|
| 《参加者》 | 18名 | (内訳) | 学部学生（2～4年次生） | 1名 |
|       |     |      | 大学院学生        | 7名 |
|       |     |      | 教員           | 7名 |
|       |     |      | 事務職員         | 3名 |

### 《実施内容》

1. 第4回の内容の共有が行われた。
2. 配付資料に基づき、「ベストクラスの選定について（FD推進委員会案）」の説明が行われ、意見交換が行われた。  
(詳細については「第5回学生・教職員FD活動交流会 会議記録」のとおり)
3. 次回の内容について
  - ①次回は、新メンバーに、26年度のFD活動交流会の検討の経緯を説明し、ベストクラスの選定作業を開始することとされた。
  - ②次回の開催予定は、5月中旬頃とされた。